



330号
錦城高等学校新聞委員会
編集室 2020

みんなでつくる
錦城高校新聞

この夏活躍した
部活動に取材
養護の先生に聞く
熱中症対策

「今出来ること」を全力で

野球部第3回戦進出 陸上部女子やり投げ4位

この夏、新型コロナウイルスの影響で部活動の活動時間が短くなる中、健闘した野球部と陸上部の部員に取材した。

野球部 3年生引退試合

野球部は7月19日(日)から行われた夏季東西東京都高

等学校野球大会に出場し、3回戦まで進出した。大会を振り返り、56回生部長の久保田 粋くん(3J)は「1、2回戦

で勝てたことはとても嬉しいですが、3回戦で打てば得点が入る場面でも打てずに負けました。悔しいです」と話した。

新型コロナウイルスの影響で練習時間が少なかった中「自分たちが今できることを試合で発揮できるように練習をしていました。また、久保田くんは「コロナ禍という厳しい状況の中、全力で大会運営をしてくださった関係者の方々には感謝しています」と述べた。

最後に後輩に向けて「自分たち3年のために様々なことをしてくれました。その影響で我慢していたこともあったと思います。これからは、やりたい放題練習してほしいです」と熱い想いを語った。

陸上部は8月15日(土)、16



試合前日に各々の種目の練習に励む陸上部員たち

新型コロナウイルスの影響で練習時間が少なかった中、自分たちが今できることを試合で発揮できるように練習をしていました。また、久保田くんは「コロナ禍という厳しい状況の中、全力で大会運営をしてくださった関係者の方々には感謝しています」と述べた。

感染対策と熱中症対策をダブルで

8月に入ってから急激に暑くなり、熱中症の患者が増えてきた。錦城も今年は部活の活動が例年に比べて少ないものの、すでに数名出ている。熱中症について、養護の水田みゆき先生に話を聞いた。

昨年までの状況として多かったのは、炎天下の中、水を飲まずに続けて部活を行ってしまい、いつのまにか脱水症状になっていたというケースだ。また、朝食を抜いてきてしまった場合や、登下校中も多いと説明した。

熱中症対策について「互いに声を掛け合って遠慮なく水分補給できる環境をつくってほしいです」と語る。特に錦城生は部活中の外周走といった、休めない、言い出せない環境で熱中症になることが多い。「熱中症は人がつくり出していて、防げることです。それが起きてしまうことは人災だと思っています」と水田先生。また、保健室では熱中症の危険性の指標となるWBGT(暑さ指数)を1日に2回測定している。それに加え、保健室と体育科の冷蔵庫には経口補水液が準備されていた。水田先生は「言われてやる行動よりも自分で対策を考えて自ら動いてほしいです。自分の健康は自分でつかみ取りましょう」と話した。今年は例年と違い、コロナ禍で熱中症対策と感染対策のバランスをとるのは難しいが、自分自身で健康管理をしよう。(紅)



保健室の前にある温度計を持つ水田先生

日(日)に行われた東京都高生多摩地区夏季競技会に出場した。貝瀬彩花さん(2A)は女子やり投げに出場し、第4位を獲得した。

貝瀬さんは「やりを良い位置に持っていく事はできたのですが、助走で勢いをつける事が出来なかったです」と自分のプレーを振り返った。また、新型コロナウイルスの影響であまり練習が出来ず、大会前は不安を感じていたという。「自分

の気になるところだけを練習するようにしました。体力を走れるまで戻すことと、やりをどれだけ力を入れないで投げられるかの2つを重視しました」と話した。

貝瀬さんは「今回、私だけが、取材を受けています。他に、友人と会ったとき、こんな時期こそ人とのつながりも大切だと思った。他人を傷つけることは、人から人へ恐怖を広げるとのつながりを破壊すること。そんな行為はもつてのほかだ。(燕)

むらさき草

最近、お盆に青森へ帰省した人に脅迫文が送り付けられるなど、新型コロナウイルスに関わる物騒なニュースをよく聞く。その類のニュースで一番嫌だと思ったのが「他県ナンバー狩り」だ。コロナ禍で外出自粛が呼びかけられている中、地元に住んでいたり通勤したりしているのに、他県ナンバーがつかれているという。自分などの被害があるという。自分ではないので、完全な他人事とは思えなかった。▼日本赤十字社が「Virus」にあげている「ウイルスのあとにやってくるもの」という動画では、「ウイルスよりもおそろしいもの」を人々の「恐怖」として